

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名		基礎看護学実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年		学期及び曜時限	前期	教室名	実習施設
担 当 教 員		岡本 智子	実務経験と その関連資格	医療施設にて看護師として勤務していた。			
《授業科目における学習内容》							
学習したことを統合して、入院生活を送っている対象の健康障害および治療、生活状況を理解し、対象の状態に応じた生活援助を実践し、臨地実習でしか学べない「対象や家族と望ましい援助関係を成立させることを大切さ、看護倫理に基づく行為の重要性、科学的根拠に基づく看護を実践する重要性」について対象と真摯に向き合い自分ができることを誠実に実践しながら主体的に学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
実習態度、出席状況、学習内容、コミュニケーション、看護技術等により総合的に判断する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
看護学概論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、臨床看護学総論、実践看護アセスメント、副読本							
《授業外における学習方法》							
実習オリエンテーション(①実習ガイド説明 ②実習要項・目標達成シートについて ③実習マナー ④カンファレンス運営について⑤病態関連図、看護計画について ⑥実習グループ別GW ⑦目標達成シートの助言⑧看護技術練習)を実施し、実習準備をする実習後は、実習の学びをまとめる。							
《履修に当たっての留意点》							
カンファレンスは、原則毎日行う。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	健康上に問題がある対象の生活と環境について理解することができる		所持している教科書・参考書	実習要項を読み、この実習で何を学ぶのか、また、どのようなことが学べるのかをイメージする。 目標達成シートの記載ふりかえりが必要な場面はリフレクションを行う	
		各コマにおける授業予定	情報収集を行い、ゴードンの機能的健康パターンに沿って情報の解釈・分析(アセスメント)をする。				
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象と人間関係を築き、理解することができる		所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習	
		各コマにおける授業予定	対象に積極的に関わり、人間関係を築く。				
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象に必要な日常生活援助を理解し、実施することができる 対象への関わりを振り返ることができる		所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習	
		各コマにおける授業予定	対象の看護上の問題解決に向けた目標を設定し、援助計画を立案することができる(日常生活援助中心)				
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象に必要な日常生活援助を理解し、実施することができる 対象への関わりを振り返ることができる		所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習	
		各コマにおける授業予定	ケースカンファレンスで全体像をもとに説明し、助言を得て今後に活かす				
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象に必要な日常生活援助を理解し、実施することができる 対象への関わりを振り返ることができる		所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習	
		各コマにおける授業予定	安全安楽に配慮し、対象の自立を妨げない援助を実施することができる。 対象の状態や反応から実施した援助が効果的であったか評価し、記録することができる。				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標 対象に必要な日常生活援助を理解し、実施することができる 対象への関わりを振り返ることができる	所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習
		各コマにおける授業予定 安全安楽に配慮し、対象の自立を妨げない援助を実施することができる。 対象の状態や反応から実施した援助が効果的であったか評価し、記録することができる。		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標 対象に必要な日常生活援助を理解し、実施することができる 対象への関わりを振り返ることができる	所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習 中間評価
		各コマにおける授業予定 安全安楽に配慮し、対象の自立を妨げない援助を実施することができる。 対象の状態や反応から実施した援助が効果的であったか評価し、記録することができる。		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標 対象に必要な日常生活援助を理解し、実施することができる 対象への関わりを振り返ることができる	所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習
		各コマにおける授業予定 安全安楽に配慮し、対象の自立を妨げない援助を実施することができる。 対象の状態や反応から実施した援助が効果的であったか評価し、記録することができる。		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標 対象に必要な日常生活援助を理解し、実施することができる 対象への関わりを振り返ることができる	所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習
		各コマにおける授業予定 最終カンファレンス で、実習目標シートに対しての成果・評価の発表を行う。グループメンバーでの学びの共有ができる。また、今後の自己の課題をみつけることができる。		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標 リフレクションにより自己の実践を振り返り、意味を見出して次の実践に活かすことができる。	所持している教科書・参考書	実習記録 事前・事後学習
		各コマにおける授業予定 自己の実践をふりかえり、実践に潜む価値や意味を見出し、それを次の実践に活かすことによりさらに状況にあった意図的な実践を行うためのプロセスとしてリフレクティブな臨床判断能力の高い看護実践者になるためのリフレクションを体験していく		